

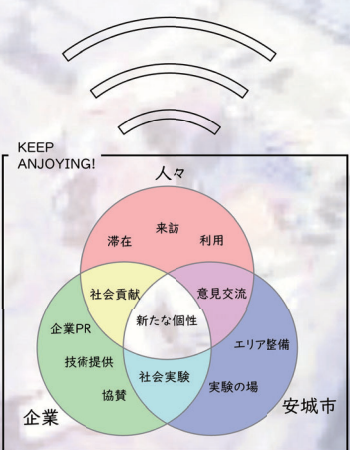
Keep Anjoying! ~三河安城に新たな個性を~

Background

三河安城駅周辺は、昭和63年の新幹線開業を契機に大規模な駅前開発が行われ昼夜問わず多くの居住者・就労者が生活するまちへ成長してきました。今後2040年に向けて、**区画整理事業による人口の増加**、**大型商業施設の開業**や**シーホース三河のアリーナ建設**等の大型整備が予定されており、多くの人を呼び寄せるポテンシャルが見込まれます。しかし、新幹線開業時に整備したインフラの老朽化及び在来線と新幹線の連絡通路の利便性の低さ、車道による歩行者動線の分断、明治用水などにまつわる複数のモニュメントの乱立による活動の場の制限などの問題によって、地域の方や訪れた人の滞留や活動が起きにくく、今後の整備に対する効果が十分に発揮されないことが懸念されます。現状の問題を解決するために、シーホース三河のスポーツチーム、地元の協賛企業、明治用水などの三河安城のポテンシャルを活かし、新たな三河安城の**個性**を**地域×企業×行政**が一体となって創出し、**三河安城に来なければ体験できない楽しさが提供できる街**にしたいと考えています。

Concept

本構想のコンセプトは、**安城 (Anio) と楽しい (enjoy) を組み合わせた「ANJOYING!」**とし、「**Cross Area (交流)**」と「**Movement Area (運動)**」の2本を柱に新たな個性を創出する空間を提案します。「**Cross Area**」は交流をテーマとして、人と人だけでなく、地域住民と企業、ファンと行政など立場を超えて様々な交流が生まれ、交流ができるデザインにします。「**Movement Area**」は運動をテーマに、全ての人が主体的に活動できる場所を作ることをテーマに、その場を使う人がどんな使い方もできるような空間にしています。どちらも、訪れた人や地域の企業や人々が使いたくなる場づくりの工夫や、地元企業が最新技術を試したり、取り入れたりする環境を設けることで、この空間を使う誰もが立場に関係なく、主役になって街を使い、街づくりに積極的に取り組める環境にすることで、多様化する変化の早い街のニーズに対応できる街にします。そして、変化の早い街にする上で、常に最新のライフスタイルが体感できる場所となり、常に**最新のライフスタイルが体験できる街=三河安城の個性**となるようにしていきます。他にも、最新が体験できる個性として、シーホース三河のバスケットを主軸に、今後流行が期待されるアーバンスポーツを掛け合わせることで、スポーツ面でも流行を掴んでいきます。また、最新だけでなく、この地域特有の**明治用水**という歴史的な個性も織り交ぜていきます。以上を踏まえて、行政だけでなく、シーホース三河のスポーツチームや地元の協賛企業、地域住民やファンを巻き込み、それぞれの立場が主体となって街を使い、たくなるハード整備とソフト的な制度整備をすることで、常に最新で個性的な空間を持続的に展開し、三河安城周辺にとどまらず、市内や県外に**モデル地区**として紹介され、広がっていく街にします。そして、2040年だけでなくそれ以降も、他の街では体験できない個性あり、**ANJOYING**できる空間を提供し続けます。



Movement Area

(エリアテーマ)
アリーナまでの道を広場に。移動を滞りに。一人一人が主体となって過ごし方を選び、**Movement (運動)**した人々が、気づけばアリーナについていること想定したエリアです。
(整備概要)
駅前のロータリーまでつながっていた安城幸田線は、**3つのレーンから構成される広場**に造り替えます。各レーンの機能として、**芝生と水のレーン**はスポーツを楽しむ、マルシェやキッチンカーでの飲食や購買を楽しむ、水と触れ合うなど、人々が自由に使える機能を持たせます。明治用水から着想を得た親水路は、人の動きを表すように広場からアリーナまで向きを変え、幅を変え流れます。次に**最新のモビリティが走るモビリティレーン**では、企業が様々な次世代型モビリティの実証実験ができる場とし、アリーナに向かう人がそれらを利用することで、アリーナに行くまで最新が体験できるようにします。脱色アスファルトで舗装される**可変レーン**は、利用用途に合わせて新型モビリティの実証実験や一般車両の送迎や、スポーツをするなど、多様化する利用に合わせて機能を変えられるようにします。

親水路
水が人々を広場からアリーナへ導き、子供が気軽に水遊びができる深さにする

芝生エリア
アリーナ動線の憩いの場。マルシェやキッチンカーでの飲食や購買を楽しむだけでなく、バドミントン等が行える場所も置く

可変レーン
新型モビリティの実証実験の場や3x3の試合を行う場など、その日のシーンに合わせて柔軟に用途を変える

Cross Area

(エリアテーマ)
バスケットの試合を見に行く人、駅の乗り換えで使う人、出張でホテルに向かう人、芝生でつづる人。どんな人が来ても、自然、水、スポーツなどと出会い、それぞれの使い方で楽しみ、それぞれの活動が**Cross (交流)**することを想定したエリアです。
(整備概要)
在来線から新幹線まで南北に整備されていた連絡通路と駅前広場は、**3つのフロアから構成される大型のペDESTリアンデッキ**と**芝生広場**に造り替えます。また、各階の機能として、最上階は、南北の動線としての機能のほかに、吹抜の形を東側に向けて矢総公園やアリーナへの動線としての機能を持たせます。中間階は、アリーナ側へ向かう動線に加え、駅前に滞在する機能が交わる階層です。駅前広場やスポーツをしている人々を見渡せるように、テラスとしての機能を持たせます。地上階は在来線側に既存の駐輪場を残し、新幹線側にはボルタリングやスケートボードを体験・体感できるスポーツエリアとしての機能を持たせます。既存の芝生広場や木々、明治用水のモニュメントは残しつつ芝生を拡充します。市民や来訪者がつかいたおすだけでなく、ホログラムを使用した試合観戦など、企業による最新技術を人々が体感できる場所です。



矢総公園
ホログラムを用いた次世代型のライブビューイングを展開。通常のマルシェやキッチンカーの設置も規模を大きくして対応

明治用水のモニュメント
既設のモニュメントを活かし、アリーナ動線へ続く親水路の始まりに

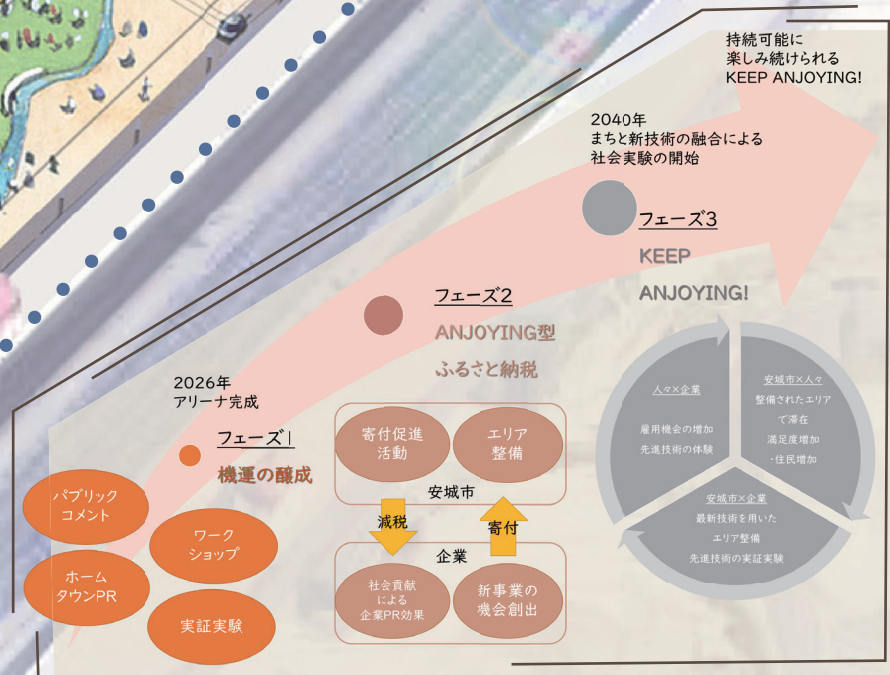
吹抜け
7階のアーバンスポーツ等の様子がみられるような形状に

アリーナ動線
幅員を広く確保し、イベント利用やワゴン販売に対応

南北動線
既設のペDESTリアンデッキの替わりとして、屋根付きフラットで半屋外の空間に

テナント
シーホースとのコラボしたカフェやアーバンスポーツ教室等を配置

ロータリー
既設のロータリーよりも規模を小さくし、段差や車止の等は無くす



事業実現化の方策

持続可能に楽しみ続けられる
KEEP ANJOYING!

2040年
まちと新技術の融合による
社会実験の開始

フェーズ3
KEEP
ANJOYING!

フェーズ2
ANJOYING型
ふるさと納税

2026年
アリーナ完成

フェーズ1
機運の醸成

